

<30 items for tomorrow> 介護心得に想うこと・・・(1)

令和2年4月13日

かすみケアグループ 代表(理事長) 齊藤 正身

私たちグループには、創設者である齊藤正男会長が、自らの経験をもとにスタッフへの想いを綴った30項目の「介護心得」があります。どの項目も、医療・介護・福祉に携わる人たちにとって、決して忘れてはならない正に「心得」です。

各項目についてスタッフの皆さんが感じたり経験したエピソードをリレー形式でつなげていき、原点に立ち戻って私たちの明日を描いていきたいと思えます。

では1回目は私から・・・

1. 利用者の人格を尊重しましょう

人間は、この世に生まれてから、いろいろな苦難、労苦に耐えて長い人生を生き抜いてきます。ところが、老後を迎え、社会や家族での役割がなくなったからといって、ないがしろにすることは人間の尊厳が著しくそこなわれる行為で、許されないことです。高齢者が年をとり、誰もが迎える「あるとき」まで、心豊かに送れるよう、人格を尊重する心構えこそ大切で、一口に申せば敬老、敬愛の精神をもって対応することに専心務めましょう。

この短い文章の中には、会長の老人福祉・医療に対する決意が集約されています。「老人にも明日がある」を設立理念に据えた所信表明とも言えます。何も私が付け加えることはありませんが、会長自身の「あるとき」が思い出されます。「あるとき」は、自分で選んだり想定して迎えられるとは限りません。会長の場合も、平成15年8月28日にその時を迎えましたが、3月15日に脳梗塞で倒れる前日まで元気でした。失語や麻痺が残存し、ほぼ全介助の状態で5ヶ月半余りの入院生活の末でした。一度も自宅に帰ることも出来ず、想いを口にすることも出来ないで最期を迎えました。さぞや悔しかったと思いますが、約4ヶ月の間、自身が築き上げた病院で、想いを受け継ぐスタッフの敬老、敬愛の精神をもった対応を、その身で実感することができたことは幸せだったと思います。まあ、今ごろ天国で「もっとやりたいことがあった！お前たち何してんだ！」と怒っているかもしれませんが・・・

それでは、次の項目は武居和明専務理事に語ってもらいましょう！